

自治会の持続・発展のための提案

－ 苧田町自治会の活性化を目指して－

氏 名 吉元 清一
指導教員 高橋 秀直

要旨

本研究は、これまではコミュニティづくりの核でありながらも、現在はその継続性の危機に瀕している自治会について、その持続・発展に向けての提案を行うことを目的としている。

昨今の自治会活動は低迷している。その原因は、一言で言えば「多様化するライフサイクル」等の社会構造の変化である。この変化により若い人の自治会加入率が低下し、活動の担い手も不足しているため、活動が低迷し、自治会の維持が難しくなっているのである。そこで今回の持続・発展について検討するにあたり、文献調査はもとより、自治体への聞き取り調査、そして近隣地域に居住する大学院生（各年代層）を対象にしたインタビュー実施し、課題の抽出を行うと共に提案内容である改善策を検討した。

調査の結果、本研究の目指すコンセプトとしては、「時代にマッチした活動とPRで加入率向上（若年層）」とした。また、具体的な改善策であるが、時代にマッチした活動については、単純な活動もあるが継続することにより、地域のコミュニティが深まるのではないかと考える。

特に重要なPR活動については、中学生から大学生、さらには20代社会人等ターゲットにIT機器の利用、そしてイベント時に自治会ブースを設け対面でのPR等を検討した。このPRについては、若年層との意見交換により、今のニーズに合った活動方法が重要視する必要があると考える。以上の継続した活動により若年層の加入率向上を目指すのである。

苧田町自治会への活性化に向けたより具体的な提案については、上述の改善策はもとより自治体からの聞き取り調査も考慮し、四つの問題点を捉えて提案内容を検討した。特に役の高齢化及び担い手不足については、運営や活動のIT化推進はもとより、各年代層から役員を選ぶということを挙げた。

何れにしても「いつでも、どこでも、いつまでも、リアルでそして笑顔で穏やかに暮らす」ために自治会独自の価値ある提案を継続的に行い、住民が自治会に入会するメリットを感じられる組織に変えていくことが、持続可能性においても重要ではないかと考える。